

日常生活圏内の交通行動アンケート調査報告

令和3年11月
あかしあ台小学校区まちづくり連絡協議会
地域内交通検討会

1. はじめに

あかしあ台小学校区まちづくり連絡協議会では、地域で暮らす上で必要となる買い物や通院などの日常の交通行動とともに移動に伴うお困りごとやご意向を把握する目的でアンケート調査を行いました。

2. 調査方法

調査は、地域内全住居宛（約3,051戸）に自治会やまち協のお知らせ配達ルートにより調査依頼するとともに調査票の回収を行いました。調査対象者は、同一住居内にお住まいのご家族等の中から、「日常の移動が最も多い方：Aの方」と「地域内移動を必要とされる高齢者（65歳以上）の方：Bの方」を自ら選定して頂く方法をとりました。

調査は、令和3年4月1日から4月15日までの期間で行っております。

3. 調査対象の属性

調査票は1,754通が回収できました（回収率 57.5%）。回収調査票の住所分布を図-1に示します。居住世帯分布とほぼ同じ割合です。

次に調査対象のAの方とBの方の個人属性について、年齢分布を図-2に示します。年齢分布は、55歳以上において人口割合とほぼ同じですが、54歳以下でかなり乖離しており、高齢者に偏ったものとなりました。

図-1 住所分布

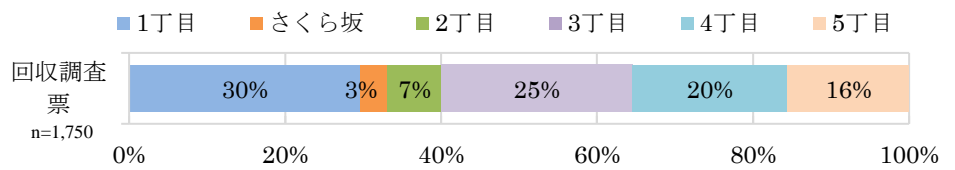
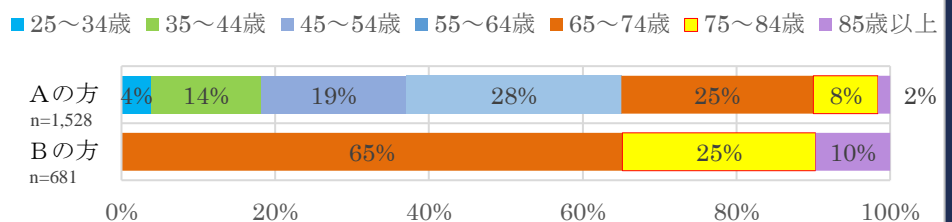


図-2 年齢分布



4. 日常生活におけるウディタウン内の交通行動

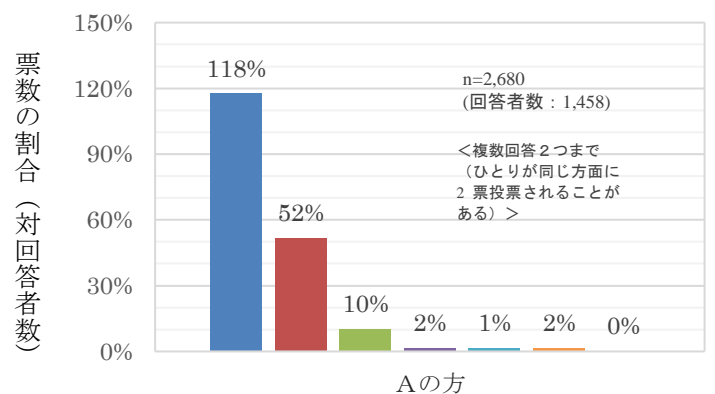
(1) よく行く外出先 (図-3 行き先図参照)

外出目的で最も多かったのは、買い物、次いで通院、そしてゆしみ他です。行き先方面について、買い物(図-4)は、近場の「南ウディタウン方面」の割合が最も高く、次いで「ウディタウン中央方面」でした。

図-3 日常の交通行動行き先図



図-4 よく行く買い物先



- 南ウディタウン方面
- ウディタウン中央方面
- ウディ・カルチャータウン内(南・中央除く)
- フラワータウン方面
- 三田市街地方面
- 神戸北方面
- 地域外

通院（図-5）は、三田市民病院及び各地区の医療センターがウッディタウン内に散在することもあり「ウッディ・カルチャータウン内（南ウッディタウン、ウッディタウン中央除く）」の割合が最も高く、次いで「南ウッディタウン方面」、そして「三田市街地方面」でした。

なお、ゆしみ先は、「神戸北方面」や「ウッディタウン地域外」にまで広範囲に行かれる傾向が見られました。

（2）よく利用される移動手段

全体で見ると、移動手段で最も多かったのは自家用車です。次いで、徒歩、自転車、公共交通、送迎の順でした。

高齢化すると、体力の低下や免許返納等により

自家用車の利用が減少傾向となります。私どもの地域における自家用車の利用状況は、移動手段の年齢層別分析（図-6）に示しますように、75～84歳層で半分程となって減少傾向が顕著となり、85歳以上層では更に少なく5人の内1人以下となることが分かりました。又、自転車を利用する方も減少することも分かりました。一方で、公共交通を利用される方はかなり増えて75～84歳層では5人に2人が利用されるようになり、85歳以上層では更に増えて半分近くにも達することが分かりました。

図-5 よく行く通院先

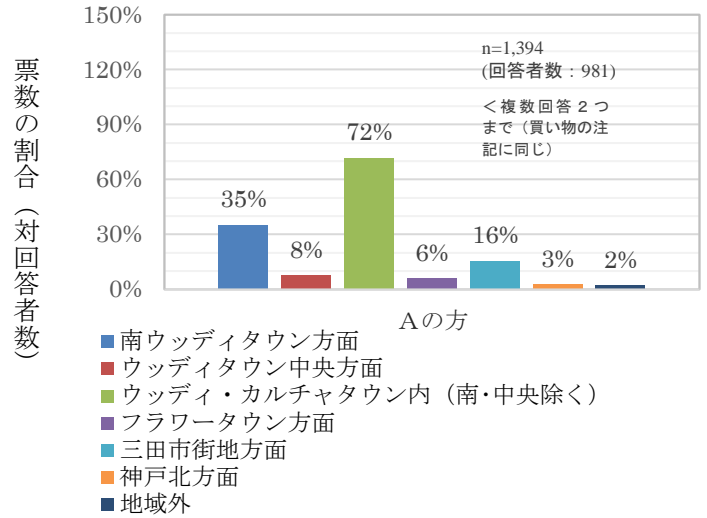
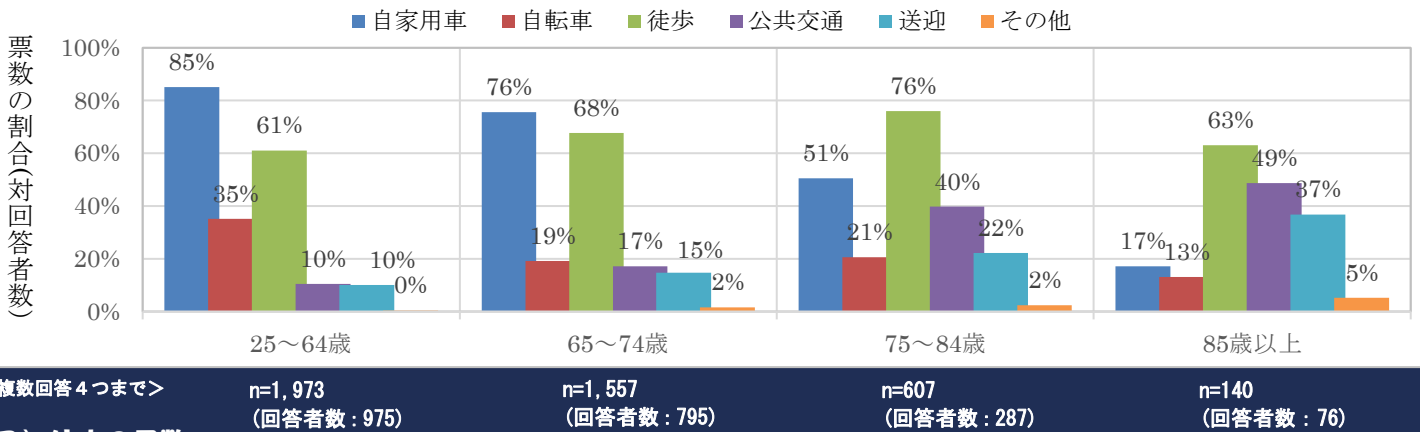


図-6 移動手段の年齢層別分析



（3）外出の日数

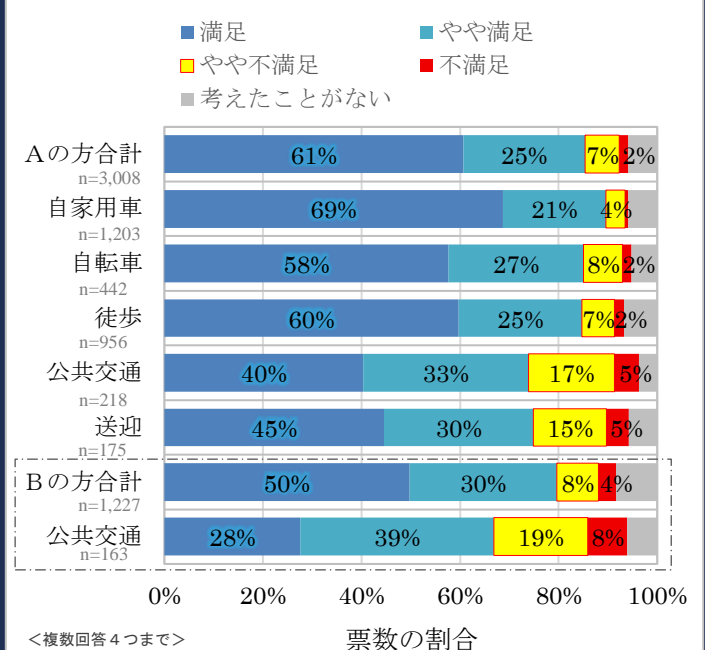
週3～4日以上外出の方の割合が80%程度あり、全般に良く外出されています。但し、高齢になるほど外出頻度が少なくなる傾向です。

（4）現在の交通行動の満足度

「満足状態」（満足+やや満足の総称、以下同じ）の割合が85%程度、「不満足状態」（不満足+やや不満足の総称、以下同じ）の割合が10%程度あるとの回答を得ました。日常の交通行動の満足度は、全体として高い水準にあり、その一方で一定数の方が低い水準にあることが分かりました。

この結果を踏まえて、どのような方がどのように不満足なのかについて、移動手段（図-7）、年齢（図-8）、居住地、行き先、の各側面から分析を行ったところ、

図-7 満足度の移動手段別分析



「不満足状態」の方の割合は、75歳以上の高齢者において高いこと、並びに、公共交通や送迎を使われる方において高いことが分かりました。

移動手段分析で公共交通が「不満足状態」と答えられた方の割合は22%～27%ありました。年齢層別分析で「不満足状態」と答えられた方の割合は、75～84歳層で16%、85歳以上層で29%ありました。

居住地及び行き先において、「不満足状態」の割合の高いところは特に認められませんでした。

(5) 現在の移動手段における困りごと

表-1の通りでした。表中の○番号は、指摘の割合の高い順を示しています。又、アンダーラインは、高齢になる程多くなる高齢者特有の困りごとであることを示しています。

表-1 日常の交通行動の困りごと

分類	A (外出多い)の方からの指摘	B (65歳以上)の方からの指摘
自家用車	①燃料費等維持費高い ②駐車場に困る ③運転ミスの不安ある	①燃料費等維持費高い ②運転ミスの不安ある ③駐車場に困る
自転車	①悪天時は移動しにくい ②大きな荷物運びにくい ③坂が多い ④通路に段差ある	・左記項目は同じ。多さは③ →①→②→④の順。但、85歳以上では「体力面に不安ある」が2番目に多い。
徒歩	①大きな荷物運びにくい ②悪天時は移動しにくい ③坂が多い	・左記項目は同じ。多さは② →①→③の順。 ③追加：体力面に不安ある
公共交通	①便数が少ない ①運賃高い(鉄道・路線バス) ③目的地まで行く路線ない(図-9参照)	①便数が少ない ②運賃高い(鉄道・路線バス) ③目的地まで行く路線ない 追加④：運賃が高い(タクシー)
送迎	①行きたい時に行けない ②気をつかう	・左記項目は同じ。多さは、 ②→①の順。

5. 将来を見据えて

(1) 将来、自家用車がない時に困ること

今後、高齢化が進み免許返納などにより自家用車を使用できない方が増えると予測されています。将来、自動車がない時にお困りになることを尋ねました。その結果(図-10)は、「買い物」が最も困るとの回答でした。次いで「重い又は大きい荷物の運搬」と「通院」でした。

地域別に見ると、「買い物」では、さくら坂と2丁目の困り具合が高く、次いで1丁目と3丁目でした。又、「重い大きい物運搬」と「通院」については、1丁目の困り具合が高い傾向でした。

図-8 満足度の年齢層別分析

(Aの方とBの方の合算)

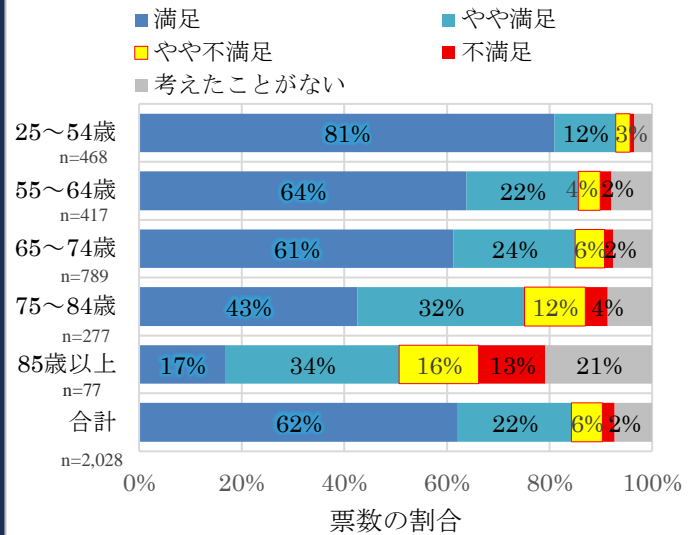
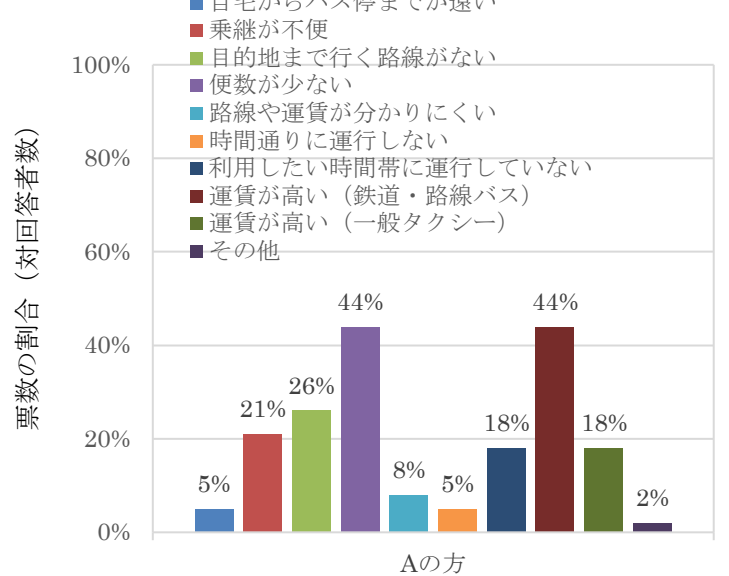


図-9 公共交通の困りごと

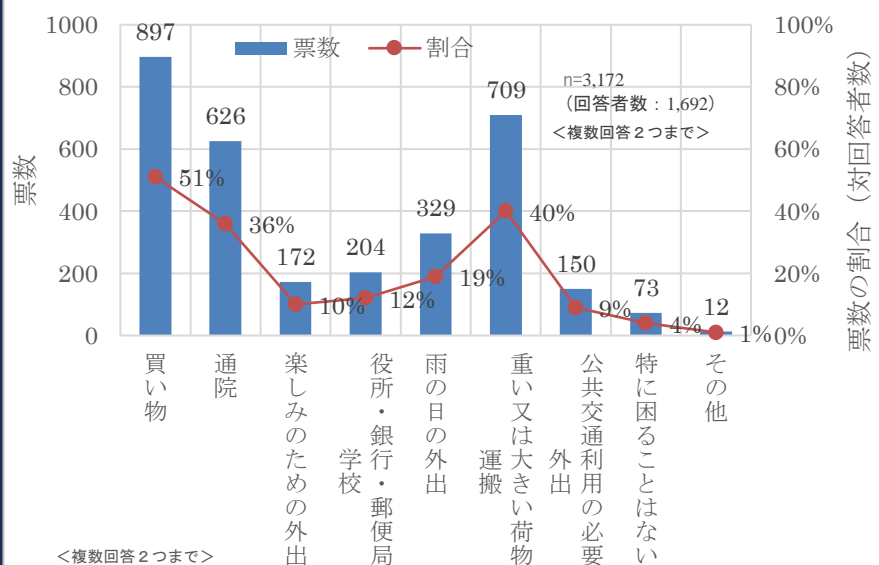
n=2,678 (回答者数: 918)

<複数回答3つまで>



(1) 将来、自家用車がない時に困ること

図-10 将来、自家用車がない時に困ること

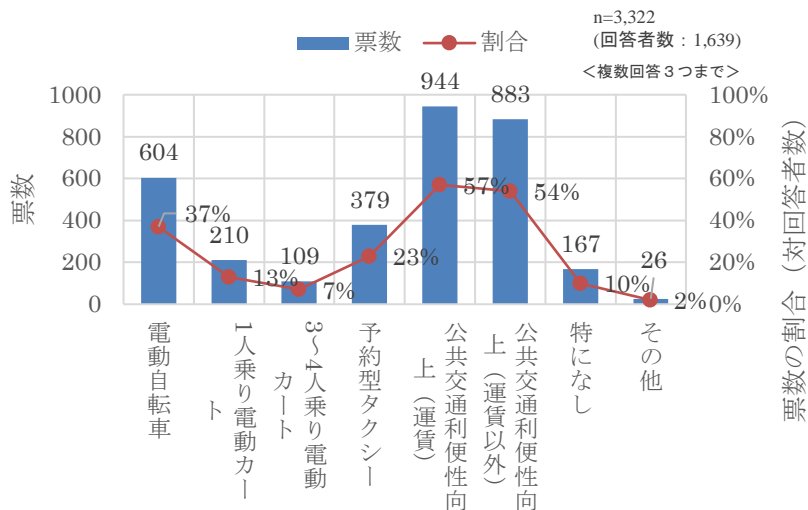


(2) 自家用車に代えて利用したい移動手段

将来に備えて、自家用車に代えて利用したい移動手段について尋ねました。その結果(図-11)は、「公共交通利便性向上(運賃)」が最も多く、次いで「公共交通利便性向上(運賃以外)並びに「電動自転車」でした。予約型タクシーを希望する方も一定数ありました。

地域別に見ると、1丁目、さくら坂及び2丁目において、「公共交通利便性向上(運賃以外)」の希望が「同左(運賃)」を幾らか上回る傾向にありました。又、さくら坂において、「電動自転車」の希望が他地域よりも少ない一方で、「予約型タクシー」の希望がある程度ありました。

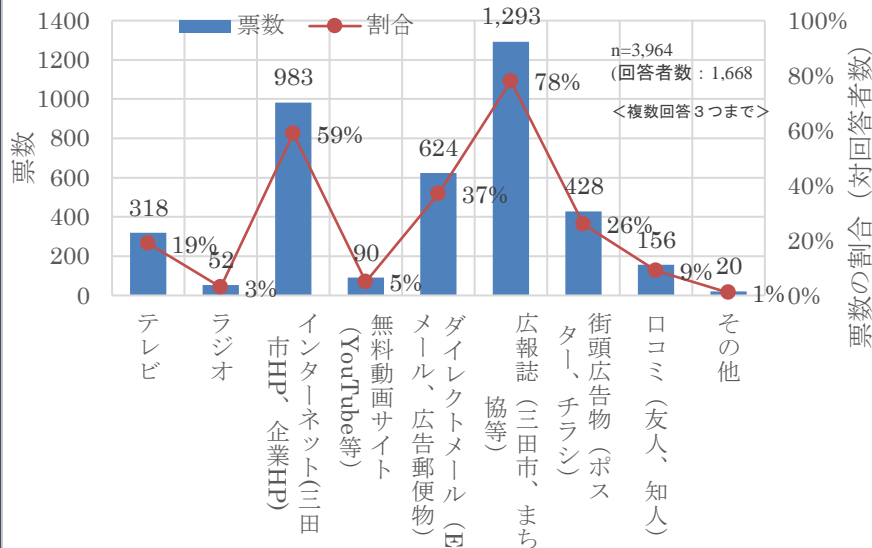
図-11 自動車に代えて利用したい移動手段



6. 公共交通に関する情報提供

公共交通の利用拡大のための情報発信については、将来の地域内交通の利便性向上のキーになることから、今回の交通行動調査の一環として希望される情報発信手段について尋ねました。その結果(図-12)は、「広報誌」が最も多く、次いで、「インターネット」です。「ダイレクトメール」も一定数ありました。

図-12 公共交通に関する情報提供



7. その他

自由意見で最も多かったのは、「路線バス」に関する事項です。その中でも路線に関する意見が多く出されています。

ご提案の多くは、ウッディタウン内又は三田駅とウッディタウン間の「巡回(循環)」、「三田駅・福祉センター方面」行き、その他「市立図書館、フラワータウン、三宮、麒麟ビール工場方面」行きなどの路線導入提案に関するものでした。

8. おわりに

現状における日常の交通行動の満足度については、高い水準にあることが分かりました。しかし、①大多数の方が満足と感じておられるもののまだまだ困りごとがあること、②満足と感じておられない方が一定数あり、その割合は75歳以上の高齢者並びに自家用車の代わりに公共交通や送迎を使われる場合に高いこと、そして、③将来、自家用車に頼れなくなった時の備えをする必要のあることなどの課題が浮かび上がってきました。今後は、これらの解決に向けて体制を再構築して取組みを続けてまいります。

最後に、ご協力頂いたあかしあ台小学校区にお住いの皆様、三田市交通まちづくり課の方々並びに貴重なアドバイスを頂いた(社)グローカル交流推進機構の田中様に深く感謝いたします。